

令和2年度学校アンケート結果

日頃は、本校教育にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。本年度の児童・保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。結果と次年度への改善策をご報告します。

※別紙に結果のグラフを掲載しております。また学校のホームページにも掲載しています。

(1) 基本的な生活習慣の育成

幼小中一貫教育で『瀬戸中学校区の子どもたちは、「あいさつ」と「なかま」を大切にします。』を目標に、それぞれの校園で発達段階に合わせた取組を行ってきました。

児童⑮「先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている」では、74.2%が「あてはまる」と回答しており、昨年度とほぼ同じ結果となりました。同内容の保護者⑬では、昨年より5ポイントほど改善しています。目安とする80%に近づいており、今後も全校を上げてあいさつ定着の取組を継続していきたいと考えています。

児童⑯「係の仕事や当番の仕事、掃除などに積極的に取り組んでいる」は、昨年度よりも「あてはまる」との回答が6.3ポイント増加しています。児童⑰「学級・学校の一員として、考えて行動している」は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、全校行事の多くが中止となった影響もあったのか、「あてはまる」と回答した児童が減少していますが、普段の学校生活では、責任感を持って仕事をしている様子もよく見られています。

児童⑳「学校のきまりを守る」及び保護者⑤の「学習規律への取組」は「あてはまる」が昨年度並みの割合でした。本年度においても、落ち着いた授業風景が見られる学級が増え、これまでの「授業中の学習態度や学習規律の改善」が一定の成果を上げていると感じています。今後も学び合う授業づくりと家庭との協力関係を築いていきたいと思えます。

児童④の「進んで運動し、体力作りをする」は、「あてはまる」が80%に達していませんが、休み時間には多くの児童が外遊びをする姿が見られ、冬の寒さの中でも外遊びをする児童は多いです。今後も外遊びを奨励していくとともに、縦割り班で朝の時間に遊ぶ「元気っ子タイム」等の取組を継続していきたいと思えます。

(2) 基本的な学習習慣の育成と学力の向上

本年度は6年生「全国学力・学習状況調査」と4・5年生「県ステップアップテスト」が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、客観的なデータは得られていません。

昨年度より、視覚支援等の誰もがわかりやすい授業を工夫し実践してきました。その結果、5月の学校再開以降、落ち着いた環境で見通しをもって学習に取り組む姿が増えていると感じています。保護者③「学校は、子どもの基礎的な学力定着に熱心に取り組んでいる」では、「あてはまる」は、昨年度より増加して目安の80%を越えています。ただ、児童③の「テストでは思い通りの点数が取れている」の「あてはまる」の割合が昨年より減少しているところから「学習態度・学習規律」の改善やわかりやすい授業の工夫が学力定着に十分結びついていないのは、今後の課題と考えます。引き続き、思考力、判断力、表現力を高める学習学習活動を通して、学力向上を目指していきます。

学力向上策として読書の習慣化を目指した取組を進め、図書貸出数は以前よりも増えているものの、児童⑳、保護者⑳「本や新聞などをよく読んでいます」では、60%に満たず、読書の習慣化は引き続きの課題と考えています。

裏面に続きます

(3) 人権意識と自己有用感の育成

児童㉓「いじめはいけないことだ」は、「あてはまる」の高い割合のうち、特に「よくあてはまる」19ポイントの増加となっている。日々の人権学習の成果が出ていると考えています。さらに、保護者㉔「いじめ問題への対応」も「あてはまる」が昨年度より7.4ポイント増加しています。また、児童㉕「友だちと仲よくしている」及び保護者㉖「子どもは、人のことを大切に、友だちと仲よくしている」のあてはまるの割合が昨年度より増加していることも人権意識の高まりとつながっていると感じています。今後も、人権課題を学んでいくことで、人権意識の向上を継続して図っていきます。

自己肯定感については、児童㉗「自分にはよいところがある」が、66.5%と昨年より低くなっています。人権学習で自分のいい所を見つけたり、ありがとうカードで感謝の気持ちを伝えたりすることや PBS の実践により児童のを良い所を認め合う取組をしてきました。児童㉘「先生は、勉強や運動、生活でがんばったとき褒めてくれる」の「あてはまる」の回答が、昨年より10ポイント近くも増加していることから、その取組自身の成果はあったものの、自己有用感に結びついていない結果となりました。児童の自己有用感の高まりにつながるような児童の充実感や達成感につながる工夫・改善が必要であると考えます。

幼小中一貫教育の取組や交流については、本年度多くの行事や活動が中止となり、実施できませんでした。来年度以降における新型コロナウイルス感染症の状況改善を願っています。

(4) 一人一人に応じた指導・支援

児童㉙「授業をわかりやすく教えてくれる」では、「あてはまる」は95.6%と昨年度より向上しています。しかし、児童㉚「授業中、先生は1人より2人以上がいい」の「あてはまる」が昨年度より大きく低下しました。これは、複数での指導が、特定の子どもへの支援や指導に割く時間が多く、他の児童にとって複数指導のメリットを感じられなかったことが考えられます。改めて複数指導の体制や授業方法について再考する必要があると思います。

また、児童㉛「相談にのってくれる」では昨年度より12.4%向上し、保護者㉜「問題に素早く対応してくれる」は、昨年度より7.4%向上した。児童や保護者に対し真摯に取り組む先生方の姿勢が成果として現れてきていると感じています。今後も家庭との連絡を密にして連携を深めていきたいと思います。いじめ対策は、年3回（7月・9月・12月）の「いじめ調査」を行い、聞き取り・指導・連絡の対応をとってきました。これからも素早い対応を心がけるとともに、一人一人の特性に合わせて、教育相談や個別の指導等の支援体制を整えていきます。

(5) その他

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、PTA活動や、地域の行事の多くが中止または規模の縮小となりました。

今後、新型コロナウイルス感染症の状況の改善を見守りながら、本来の活動が再開できることで幼稚園・中学校との連携や地域のよさを伝える教育を進めていきたいと考えています。